

令和6年度 「全国学力・学習状況調査」の分析結果と今後の取り組みについて

令和6年 10月31日

小城市立 桜岡小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査(6年国語・算数)の本校の結果をお知らせします。全国調査での生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。また、国語と算数については、学習指導要領の内容別の主な課題と改善に向けた取り組みについてまとめています。

[調査結果のポイント] ◇(成果) ◆(課題)

6年生の全国的な傾向として以下の事項が報告されています。

国語

- ◇人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができている。
- ◇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができている
- ◆目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方の工夫に課題がある。
伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする指導の充実が大切である。

算数

- ◇図形について基礎的・基本的な知識・技能は身に付いている。
- ◇速さを道のりと時間の関係から捉えることはできている。
- ◆図形について深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題がある。図形を構成する要素を見だし、活用できるよう指導することが必要である。
- ◆速さの意味について理解することに課題がある。速さなど単位量当たりの大きさの意味や表し方を理解するとともに、場面や目的に応じて比べ方を考察し日常生活にいかせるよう指導する事が大切である。
- ◆折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述することに課題がある。グラフを読み取り、見いだしたことを表現できるように指導することが大切である。

[本校各学年の正答率について]

3ページからの分析結果・自校の課題と改善にむけた具体的取り組みをご覧ください。

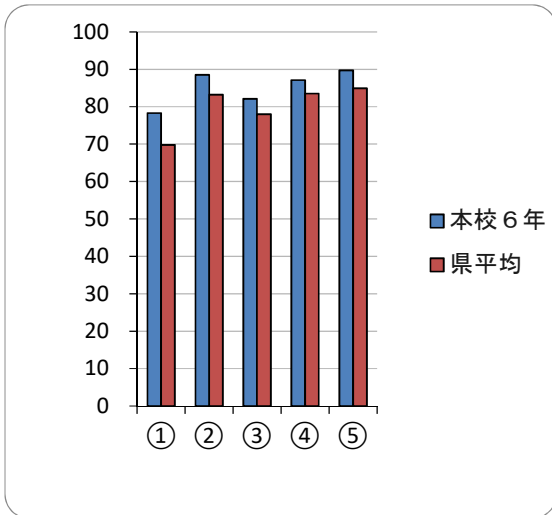
[今後の取り組みについて]

本校では8月に職員研修を行って今回の結果を詳しく分析しました。その分析結果をもとに2学期以降の授業改善等に生かして、学力向上をはかっています。家庭学習の具体的な取り組み・お願いについては6ページに掲載しております。ご理解ご協力よろしく申し上げます。

《6年意識調査》

【数値が特に高かった項目】

調査の項目	
①	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか
②	将来の夢や目標を持っていますか
③	5年生までの学習の中でICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる
③	5年生までの学習の中でICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる
③	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

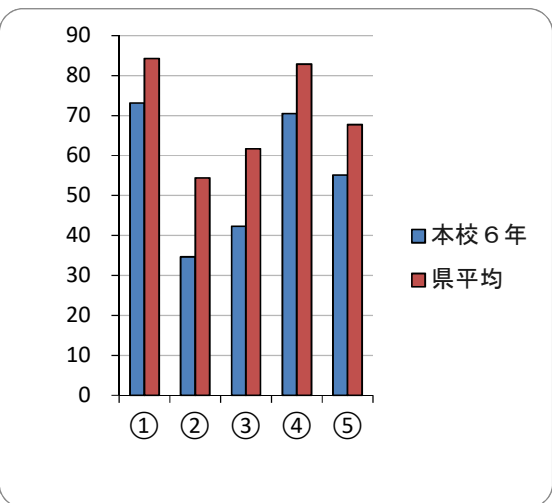


【分析】

- ・携帯電話やスマートフォンの使い方については、家庭で一緒に約束を決め、それを守ることができている。そのため、SNSの使い方などのルールやマナーを家庭と一緒に学び、正しく使えるようにしていくことが有効である。
- ・夢や目標を児童が意識しながら生活している。達成するまでの過程や必要なことを伝えることで、学習意欲にもつながられる。
- ・ICT機器を活用することで、学習に有効であると考えられる児童が多いことから、学習場面に応じた使い方を工夫することで、学習意欲を高めることができる。これまでの事例を生かし、活用場面を増やしていく必要がある。

【数値が特に低かった項目】

調査の項目	
①	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
②	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)※26冊以上と答えた児童数
③	授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
④	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
⑤	解答時間は十分でしたか(国語)



【分析】

- ・寝る時間が決まっていない児童26.9%おり、生活習慣が整っていない。それに伴って起きる時間も乱れており、遅刻も多い。生活習慣を整え、健康でやる気に満ちた生活を送ることで、学習習慣も身に付けていく。
- ・家にある本が25冊以下であると答えた児童が65.4%と普段から本に触れる機会が少ないことがうかがえる。家庭との連携も含め、読書する機会を増やし、多くの知識を吸収できる環境づくりができるようにしていく。
- ・しっかりと考え、自分の意見を発信していくことができていない。まずは、発表する機会を増やし、称賛し、成功体験を増やしていくことで、積極的に活動できる児童を育成していく必要がある。
- ・解答時間が足りなかった児童が多く、情報処理能力も育成する必要がある。まずは、文章を読むことに慣れるよう、家庭での読書活動や授業の中で読む活動を増やす。また、多くの問題に触れさせ、自信をつける必要がある。

◆学力・学習状況調査から

《 6年生 国語科 》

全体の概要

- ・教科としての正答率は、県平均とほぼ同じです。
- ・「知識・技能」の分野は県平均とほぼ同じです。
- ・「思考・判断・表現」の分野は県平均とほぼ同じです。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>◆主語、述語の関係が正確に理解できていません。</p> <p>◇漢字の問題での正答率が昨年度に比べ上がりました。</p>	<p>・各学年で日々の授業の中で、繰り返し主語、述語、修飾語など基本的な学習を入れ、身に付けられるような手立てを取るようになります。</p> <p>・日々の学びを積み重ね、よりテストに近い経験を積み上げていく活動を継続していきます。</p>
思考・判断・表現	<p>◆複数の資料や条件を関連付けて読むことが苦手だと思われます。</p> <p>◆問題文をしっかりと読み、何をたずねられているかを把握する力が身につけていません。また、最後の問題に無回答が多く、処理する能力が身につけていません。</p> <p>◆条件に合わせて記述する力が身につけていません。</p>	<p>・他教科においても複数の資料や条件を関連付けて読んだり、書いたりする学習活動を取り入れていきます。</p> <p>・問題文に線を引きながら、何をたずねられているかをしっかり把握し、文章の中からキーワードを見つけられるような活動を取り入れていきます。慣れるまで繰り返し行うことで、処理する速さも高められるようになります。</p> <p>・各教科授業の終わりに、いくつかの条件をつけ、振り返りを書いたり、学習のまとめをしたり、書く活動を取り入れていきます。</p>

◆学力・学習状況調査から

《 6年生 算数科 》

全体の概要

- ・教科としての正答率は、県平均を大きく下回っています。
- ・「知識・技能」の分野は県平均を大きく下回っています。
- ・「思考・判断・表現」の分野は県平均をやや下回っています

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>◆除法（わり算）の考え方や計算の仕方が身につけていません。</p> <p>◆表やグラフを読み取る力の育成が必要だと思われます。</p> <p>◇かけ算や速さを求める問題の正答率が上がりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の問題を繰り返し行い、計算の仕方を身につけながら、小数や分数の問題にも挑戦し、取り組む機会を繰り返すしていきます。 ・算数科だけでなく、理科や社会科など他の教科等においても表やグラフを活用する機会を多く設け、読み取る力や活用する力を育成していきます。 ・これまで通り、基本的な問題を繰り返し取り組んでいく活動を継続していきます。
思考・判断・表現	<p>◆長い文章を読み、題意を理解すると共に、解決に必要な情報を読み取る力に課題が見られます。</p> <p>◆文章と図や式を関連させることに課題があり、提示された条件を満たした解答をすることにも課題があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの情報を含んだ長い問題文から、必要な情報を選択し、問題解決を行うような練習を行います。 ・説明に必要な用語を確実に理解する時間を確保します。その上で、図と式を関係づけながら、自分の考えを説明する学習活動を多く取り入れます。 「はじめに・次に・だから・なぜなら」など説明の流れ（型）を示し、論理的に自分の考えが説明できるようにしていきます。

R6 これからの取り組み

学校の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学習内容を理解・定着させるための工夫を図る。 ・たくさんの情報の中から、言葉に注目し、キーワードを見つけ出すことで、整理するための力をつけられるような指導の工夫を行う。 ・学習の振り返りの中で、文章を書く機会を増やし、重要なポイントや気づきを理解する力を身につけるような指導の工夫を行う。
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の終末に振り返りをする時間を確保する。授業のポイントに即した振り返りを書かせるための手だて（視点を示すカードなど）を工夫し、次時の学習にもつながるようにする。 ・授業の初め時間や宿題などで既習事項についての基礎基本の習熟を図る。 ・授業の中で、与えられた問いに沿った内容で答えを書き、友達と伝え合う時間を設ける。 ・学年の読書コーナーを設けて、読み物に触れる機会を増やす。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や計算等の既習事項を定着を図るために、日頃の日記指導や授業中のスキルタイムの工夫を行う。 ・人物、時、場所などに着目しながら、順序良く読み取ったり、文章に書いたり、話したりできるような授業展開の工夫を図る。 ・キーワードを使って振り返りを書く学習を日常的に取り入れ、複数の条件下で自分の思いを表現する力の基礎を養う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着のため、単元が終了した後も、繰り返し練習できるように授業時間の中や家庭学習の課題として取り組ませる。 ・算数科で問題を解かせるだけでなく、説明をさせる活動をさせる。（リレー形式で説明するなど） ・キーワードを入れたり、文字数を制限したりして、学習内容をまとめさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を振り返る時間を授業の初めや終わりに確保する。 ・1人1台端末や学習プリント等を使って、基礎基本の定着を図る。 ・ペア学習やグループ学習で、自分の考えを説明する時間を設ける。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・主語、述語、修飾語については、小単元のみでなく説明文などでも必ず1箇所は扱うようにして、文の組み立てを意識させる。 ・問題文の大切なところに線を引き、聞かれていることや情報を整理する習慣をつける。 ・式と答えを書くだけでなく、立式の理由や計算の仕方を言葉で表す時間を設ける。（頭で考えていることをアウトプットできるように方法を示す、吹き出しや話形など）
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科においては、答えを求めるだけでなく、図や表に表したり、その答えになる理由や計算の手順を式や言葉を用いて書いて説明する活動を取り入れる。 ・国語科においては、物語文の学習の終末に、心に残ったことを書かせる活動を取り入れる。その際、文字数や使用する言葉を指定するなどの条件を付けるとともに、書き方の型を示すことで慣れさせる。
保護者・家庭の協力を得ること	<p>○家庭学習の時間の確保（1・2年：30分 3・4年：45分 5・6年：60分）を『家庭学習のてびき』を使って呼びかけ、より関心をもってもらいながら協力体制を構築していく。</p>

◇ 桜岡小児童の家庭生活・家庭学習の充実について ◇

～ 全国学力学習状況調査 意識調査結果より ～

○これから子ども達の成長と学ぶ力を伸ばしていくために

●寝る時間・起きる時間が定まらない状況がみられました。県平均や全国平均と比べても大きく違っていました。



☆生活習慣を整えることは、健康な体をつくり、集中して学習を進めることにつながります。まずは「**早寝・早起き・朝ごはん**」を意識して、生活リズムを整えていきましょう。

また、1日のスケジュールの中で、決まった時間帯に家庭学習を行うことも習慣をつくる意味でとても大切です。

●日々の家庭学習が、県や全国の児童に比べ全体的に不足しています。1日の家庭学習の目安は、
1・2年生 : 30分 / 3・4年生 : 45分 / 5・6年生 : 60分 (学習の手引きより)



☆上の家庭学習は、最低限達成したい時間になります。中学生になれば、それ以上の家庭学習の時間が必要となってきます。日々の積み重ねを確実にを行い、学ぶ習慣をつくることがやはり大切です。

また、「好きだ!」と思える学習が一つでもある子は、そこを伸ばそうと努力することができます。小学生の間に、ぜひ「好き」とか「得意」とか「できるかも」などなど、成功体験やほめられる体験をさせてあげてください。

●解答時間が十分でなかった子が多くいました。まずは、文章を読むことに慣れる必要があります。



☆文章を読むことは、経験の差が大きく出ます。また、問題文を読む力がついていれば、情報処理能力は高まります。日々の音読と読書活動を習慣とし、親子で一緒に取り組みながら、共に過ごす時間をつくってみてはどうでしょうか。もちろん、音読や読書活動は家庭学習の一つです。

○「早寝・早起き・朝ごはん」を意識

○1日の家庭学習の目安 1・2年生 30分 / 3・4年生 45分 / 5・6年生 60分

○日々の音読と読書活動を習慣として、親子で一緒に